

(糸魚川市大規模火災) 平成28 (2016) 年12月22日日本海で低気圧が急速に発達

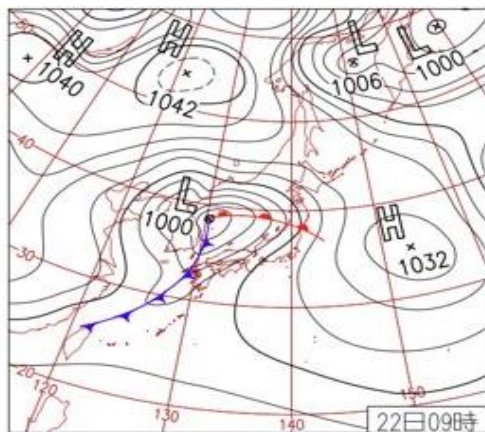
## 日本海で急速に発達した低気圧に伴う「強風」と「フェーン現象」により火災が拡大

### 【概要】

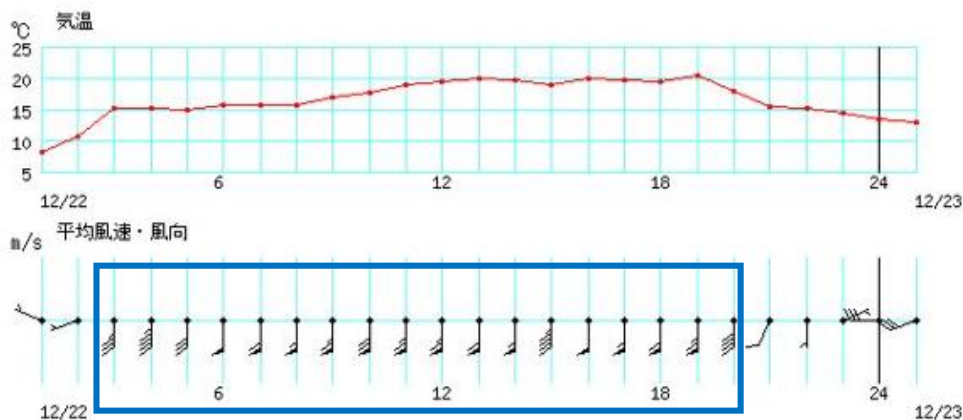
平成28 (2016) 年12月22日、前線を伴った低気圧が日本海を発達しながら東北東へ進み、この低気圧からのびる寒冷前線が夜に新潟県を通過し、上越を中心に南からの強い風が吹いた。糸魚川では22日2時までは西寄りの風だったが、22日3時頃からは南の風になり、風も強まり10時18分に最大風速14.2メートル、12時09分に最大瞬間風速24.2メートルを観測した。南の風は、夜のはじめ頃の20時前後まで吹き続けた。

糸魚川市内では、22日10時20分頃に火災が発生し、フェーン現象に伴う強い南風によって広範囲に延焼拡大し、焼失面積約40,000㎡(被災エリア)、焼損床面積30,213㎡、焼損棟数147棟という大規模な市街地火災となった。なお、フェーン現象により、県内では22日の最高気温が平年より10度以上高くなったところがあり12月の極値を更新した地点もあった。

(火災についての出典：総務省消防庁「平成29年5月糸魚川市大規模火災を踏まえた今後の消防のあり方に関する検討会」)



地上天気図 平成28年12月22日9時



糸魚川における気温、風向・風速の変化 (12月22日1時~23日1時)